

# 1975年 勇者ライディーン

『勇者ライディーン』（ゆうしゃライディーン）は1975年（昭和50年）4月4日から1976年（昭和51年）3月26日まで、金曜日19時00分 - 19時30分にNETテレビ系列で放送されたテレビアニメ。全50話。この時間帯は長らくMBS担当だったが、1975年3月31日の「ネットチェンジ」によってNETが獲得。関西地区では朝日放送に系列局が変わり、第2期ウルトラシリーズの最終作となった『ウルトラマンレオ』終了後に本番組が始まった。企画は東北新社、アニメーション制作は創映社、広告代理店は旭通信社、主提供スポンサーはポピー。創映社による初のロボットアニメで、前作『ゼロテスター』の制作スタッフが担当し後の路線の礎となった。安彦良和は本作で初めてキャラクターデザインを担当した。

## 【製作経緯】

東北新社当時社長の植村伴次郎の「東映動画ではマジンガーZをやって儲かっているから、でかいロボットをつくれればいい」の一言から本作品の企画は始動した。目標は「マジンガーを越える」ことに据えられた。ただし関係者によって若干の意識相違はあり、富野喜幸は「マジンガーZとゲッターロボを越える」、安彦良和は「グレートマジンガーを越える」であったと述べている。ただ、いずれにしても当時は『マジンガーZ』の続編『グレートマジンガー』が苦戦状態にあり、ただ似せただけではヒットしないことは明白だったため、従来のロボットアニメ作品に使われていない、斬新な設定、物語、キャラクターデザイン等の導入や開発が図られた。主役ロボットには後述の外見意匠上の差別化だけでなく、玩具会社提案を積極採用した結果としての比較的無理の少ない別形態への変身能力付与、それ自体が未知の古代文明による兵器であること、ロボットが搭乗者を選ぶこと、いわゆる乗り物操縦でなく搭乗者の身体動作をなぞって動作すること、光線兵器が強力な切断力をも合わせ持つ等の設定が与えられた。物語・演出面では伝奇/オカルト要素、古代王家の子孫という貴種流離譚要素、消えた母への思慕や高貴で美形な敵役の配置といった舞台劇ではオーソドックスなドラマ要素の導入、ロボット物未経験の富野喜幸、長浜忠夫の監督起用が図られた。脚本は五武冬史のほか、伊上勝や高久進、辻真らが担当した。ライディーンという名称は、江戸時代の力士「雷電」をもじった物。放映開始前には当時の人気雑誌『テレビマガジン』誌上で主役ロボット名の投票が行われた。候補は「ザマンダーキング」「エメランダー」と「ライディーン」。「ザマンダーキング」は本作の企画段階の名称。「エメランダー」は決定済みだった彩色ではなく、緑塗装版のイラストを掲載したことによる。

## 【受容と影響】

放送後、関連商品はヒットし、ポピーの売上は『マジンガーZ』を越えた。その利益は東北新社を潤したが、制作請負の創映社には回ってこず、この不満が後年の同社の独立のきっかけともなった。安彦良和の描く、細くはかなげな主人公と美形敵役シャークンは、多くの女子ファンを獲得した。参加資格が女子中高生のみで男子禁制の「ライディーンファンクラブ・ムートロン」なども存在し、会員数は最盛期に1000人を越えた。ファンは制作スタジオに押しかけたり、第27話でシャークンが死んだ際には、長浜宛にカミソリ入りの恨みの手紙が多数届いた。シャークンは以後のサンライズが自社作品に頻出させる美形悪役の始祖であり、後年の『機動戦士ガンダム』の有名キャラクターであるシャアの名もシャークンにあやかっている。

## 【ストーリーの伝奇性と監督交代劇】

当時のユリ・ゲラー出演番組などに代表される超常現象ブームに便乗する形で、チーフ・ディレクターの富野喜幸が『海のトリトン』でも得意とした伝奇ロマンを狙った企画だった。しかし、ロボットアニメというジャンルへの気負いもあり、伏線やキャラクター設定を活かしきれず、シリーズ展開も混迷した末に監督の交代へと至った。更にはそのオカルト路線が、NETテレビの株主・朝日新聞の「スプーン曲げなどのオカルト（超常現象）ブームには迎合せず、徹底批判する」という当時のキャンペーンに反していたことで、その内容から超常現象などの描写を封じる路線変更を余儀なくされた。この経緯について後年、富野はインタビューで述懐している。本作は元々、先行する『マジンガーZ』『ゲッターロボ』等と差別化を図るため、スポンサーの了承の下でオカルト設定を取り入れて企画された。しかし、第3話までの作画・1クール（第13話）までの話が固まったところで、後から決まったNETプロデューサーからオカルト色排除の業務命令が出された。やむなく第4話から路線転換を図り、コミカルな要素も盛り込んだ痛快活劇の王道への修正を行うが、その後も「ちゃんと直っていない」と更なる直しを要求するNET、「局の言いなりになるな」と反発する制作現場、代理店、スポンサー等、富野の元にはそれぞれの立場からバラバラの要求が出される。板挟みになった富野はこれらをまとめ切れず、騒動の責任を取らされて降板させられた。だが、脚本の五武冬史と富野に代わって監督となった長浜忠夫の頑張りで明朗な物語を紡ぎ出し、後に「長浜アニメ」と称される路線を確立した。富野自身も後任となった長浜の下で引き続き制作に関わり、その演出を見てかなりの影響を受けたことを述べるなど、後の『無敵超人ザンボット3』から始まり、『機動戦士ガンダム』を経て開花した、富野ロボットアニメの萌芽をうかがわせる作品となった。また、皮肉にも交代後の長浜の下で、ムー帝国の遺跡の出現、ムー帝国の末裔の登場といった伝奇性の強い演出が行われ、物語の進行にインパクトを持たせる結果となる。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

<https://majingai.x.fc2.com>



2021.07.02

# 勇者ライディーン

# 1975年

## 【ストーリー】

1万2000年前にムー帝国を襲った妖魔帝国が再び現代に蘇り、「悪魔の時代の完成」を目指して活動を開始した。そして、世界で謎の大地震が発生する。考古学者の祖父と父を持つ快活な少年ひびき洗（あきら）は地震直後に「目覚めよ勇者よ、ライディーンが待つ」と語りかける謎の声を聞き、導かれるままボートで沖へ向かう。そのもっと沖合には洗の父一郎が乗る調査船が居た。古代ムーの文献に書かれた謎のエネルギー「ムートロン」を調査していたのである。その調査船を狙い妖魔帝国軍のドローメとガンテが海中から浮上し迫る。一方洗のボート付近の海が突如うねり始め大渦になる。渦の中心からピラミッドが現れ、その中から巨大な金色の像が出現した。洗が呪文を唱えると像は洗を吸い込み鮮やかな色彩を帯びて動き始めた。像は古代ムー帝国が妖魔に対抗するため作り上げた巨大ロボットライディーンだったのだ。洗はライディーンを操縦してなんとか妖魔軍を退けるが、調査船と乗員はガンテの魔力で石にされ、船は沈み乗員は拐われてしまう。想定外の敵の出現に驚いた妖魔帝国のプリンス・シャーキンはライディーンに興味をもつ。

## 【主人公ロボットデザイン】

前述のように本作は『マジンガーZ』を強く意識しており、マジンガーが黒、悪人顔、西洋甲冑、飛び道具による遠距離戦などのイメージを持っていたのに対し、ライディーンはトリコロール（赤、青、白）、善人顔、日本甲冑、接近戦（チャンバラ）というイメージである。いずれもリサーチの結果、『マジンガーZ』が当時の子供達に不評だった点を『ライディーン』で修正した。大鎧とベルボトムとツタンカーメンのマスクと鷲（変形時）がモチーフになっている。デザインは安彦良和とポピーの村上克司との共同によるもので、クリンナップは安彦が行った。以後に通例となるポピー側からのマスターデザインの提示はなかったようで、安彦は「とにかく白紙からやらされたという覚えはある」と語っている。村上克司によると『仮面ライダー』のような変身による二面性をロボットに持たせようとした結果、鳥に変形することを思いついたそうである。2006年にはアサヒ飲料の缶コーヒー「WONDA 100年BLACK」（現・BLACK WONDA ～ブラックワンダ～）のTVCMに数秒間、モノクロの映像で登場した。

## 【ライディーン】

12000年前ムー大陸で、ムー帝国の王ラ・ムーの命により妖魔帝国の侵略に対抗するために開発された巨大ロボット。普段は人面岩内部に金色の素体状態で格納されているが、ラ・ムーの血筋を引く操縦者のひびき洗がフェード・インすることで、彼の念動力がキーとなって稼働する。身長52メートル、体重350トン。材質はムートロン金属で、動力源となる神秘のエネルギー、ムートロンの作用により、戦闘で受けたダメージは素体状態の時に自己修復される。物語中盤で強化改造を試みた際には改造を受け付けず、搭載しようとしたガトリングミサイル砲が溶接機の熱で溶けるなど素体状態の防御力は高い。また、妖魔帝国が用いる、触れるものをみな石化させる黒い稲妻も効かず、呪術攻撃に対する耐性も備わっているなど、妖魔帝国に対抗できる唯一の存在である。操縦席は人間の心臓にあたる場所にあり、額からフェード・インした後、内部のシャフトを降下して座席に収まる。洗の腕に操縦用のサブアームを連結させて腕部を操作する。ひびき洗とは一体であり、初めて強化された巨烈獣（コーカツ）と戦った際には、ライディーンの激しい損傷の影響で、洗も命を落としてしまった（後にムートロンの力により復活）。人為的な強化が試みられて失敗した後、自ら封印を解き、より強力な武器を使用可能とした。中にはゴッドボイスのように諸刃の剣のような武器も存在したため、戦いはますます過酷になった。猛禽類を模した戦闘機形態ゴッドバードに変形することが可能。遠距離を移動する際やスピードの早い敵の追跡に多用し、この形態での体当たりが必殺技となる。主な武器や技は以下のとおり。この他にも、肉弾戦（ライディーンチョップなど技名の発声有り）を行ったり、構造上露出したままの足裏のバーニアから火を噴いてピンチを脱したことも何度かある。  
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』



# 勇者ライディーン

# 1975年

【ひびき 洗 (ひびきあきら)】声 - 神谷明 (次回予告ナレーションも兼任)

本作の主人公。ムー帝国の帝王ラ・ムーの娘レムリア (日本名:ひびき玲子) の一人息子であり、ライディーンの操縦者として運命付けられた少年。父は、考古学者のひびき一郎。設定年齢15歳で、臨海学園に通う中学三年生。二枚目で、学園のアイドルの桜野マリとは互いに好意をもつ間柄。熱血漢であり、血の気が多く攻撃的で喧嘩っ早い、天然ボケな面も持つ。サッカー部のキャプテンであり、部員に慕われている。第1話からスパーカーというバイクを乗り回しており、通学にも用いている。戦闘服の着用は第2話から。父は妖魔帝国によって石にされ、母も行方不明、という過酷な状況で戦い続けるが、周囲の助けもあり明るく振舞っている。しかし妖魔帝国のこととなると途端に我を忘れ、特に母親がらみでは、周囲の状況を省みずに暴走気味になることもしばしばだった。ライディーン出現後は、ムトロポリスのコーブランダー隊に所属している。

【桜野マリ (さくらのマリ)】声 - 高坂真琴→芝田清子 (第31話以降)

本作のヒロイン。臨海学園のアイドル。洗のみ、たまに「まりっぺ」と呼ぶ。東山博士の養女とする資料があるが、劇中では明確な説明はない。また、ロマンアルバムでは娘とされている。なお、第2話などで東山博士をお父さんと呼ぶシーンがあり、第18話では、洗に対し「東山所長」と発言している。サッカー部のマネージャーであり、洗とは周囲も公認のカップル。洗の母が行方不明のため、彼の生活全般の面倒を見る母親代わりでもあった。洗がライディーンに乗ることになってもそれは変わらず、持ち前の明るさと行動力でサポートしていた。明日香麗がコーブランダー隊に入隊して以降は、何かにつけてやきもちを焼くという少女らしい面も見せている。自分のせいで洗の目が一時的に見えなくなった第25話の戦いでは、スパーカーを操縦し洗にフェード・インをさせただけでなく、スピットファイターで敵にはりつき洗 (ライディーン) の目の代わりになった。第31話以降は、洗の父と祖父がチベットへ行くのを受け、同行するためにコーブランダー隊を離れた明日香麗に代わってコーブランダー隊に入隊し、名実ともに戦うヒロインに成長した。因みに隊員服はセーラー服を模している。作品のお色気要員でもあり、頻りにパンチラがあり、中盤に差し掛かる頃は毎回サービスシーンがあった。特に第26話ではポインダーの燃料が切れた (ライディーンが出撃できるようにエンジンの出力を上げて煙幕を作った) ため、乗組員全員が燃料の代用として服を炬にくべていた所に居合わせてしまい、服を強制的に剥ぎ取られてスリッパ一枚の姿にさせられている。

【神宮寺力 (じんぐうじちから)】声 - 井上真樹夫、市川治 (第3話のみ)

コーブランダー隊所属のパイロットで、ブルーガーを操る。一見孤高に見えるクールで口の悪さは相当なもので周囲から誤解されやすい。操縦の腕は超一流で、初登場の第3話は、小型プロペラ機でライディーンを援護しつつレッド団も助けた。実戦経験があり、猪突猛進な洗を馬鹿にしていたが、本人も意外に熱血漢であり、ブルーガーで化石獣に突っ込んでいくこともしばしばだった。交通事故で弟を亡くしているらしく、家族を思う気持ちは強い。最終回直前、圧倒的な力を持ち傷つけることさえ困難な大魔獣バラゴーンに特攻し、戦死する。それは、バラゴーンに対抗するためにラ・ムーの星を発動させた場合、洗の母であるレムリアが死んでしまうことを知っての行動だった。愛称は「ミスター神宮寺」→「ミスター」。

【明日香麗 (あすかれい)】声 - 江川菜子/岡村明美 (スーパーロボット大戦シリーズ (一部))

靈感に長けている超能力少女。落ち着いた雰囲気を持ち、大人の女性を感じさせるが、暴走族に入っていた過去がある。修道院にもいたらしく、初登場時はシスター姿だった。超能力でライディーンが存在を知り、コーブランダー隊に入る。妖魔帝国の化石獣の気配を察知できる力を持つ。当初の設定ではレムリアの姉で、そのためにライディーンと呼応できる能力があった。また、冷凍睡眠から遅れて目覚めたために妹より年が若く見えるなどの設定があったが、それらの設定が生かされることはなく、第30話で洗の父と祖父がチベットに行くのに同行し、コーブランダー隊を離れる。第45話では、ひびき一郎・ひびき久造とチベットに滞在するシーンが描かれたが、彼女は帰国していない。マリにはやきもちを焼かれていたが、自身は洗を恋愛対象としては見ていなかった。中盤 (第23話頃、作画設定資料によると第14話以降)、髪型が変わっている。サイドにピンピンと跳ねた毛があったが、全て跳ねの寝た形になり顔からはそばかすも消えた。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』



2021.07.03

# 勇者ライディーン 1075年

## 【妖魔帝国】

1万2千年前にムー帝国を襲った悪魔の軍団。

## 【プリンス・シャーキン】 声 - 市川治

妖魔帝国の悪魔王バラオに仕える、悪魔人の王子。仮面をかぶっているが外すと美形という、美形悪役キャラクターの元祖。悪魔世紀復活を目指して地上侵攻を目指す、ライディーンの抵抗に苦戦。バラオの怒りの波動を受けて苦しむこともあり、その様は後に定番化した。失敗続きの部下任せにはせず、自ら作戦を企画立案して行動することも多い。得意としているのは情報戦らしく、ライディーンこそ悪魔の手先であるという情報操作を行ない、ライディーンによく似た化石獣ギルディーンを出撃させたり、砂場金吾（すなば きんご）という名で人間に化けて臨海学園に潜り込み、洗を痛めつけてもいる。プリンスとされているが、実はラ・ムーの血縁にあたる人物であり、洗とも血縁関係にあったとされる。しかし本人は最後までそれを知ることなく、巨大シャーキンとなりライディーンと戦い、割腹して果てた。洗はその死に際し「シャーキンがもし味方だったなら」と悼んだ（第27話）。

## 【市川治】

市川 治（いちかわ おさむ、1936年6月21日 - 2009年1月2日）は、日本の俳優、声優。フリー。埼玉県熊谷市出身。埼玉県立熊谷高等学校卒業。新日本企画代表を務めた。

芸歴  
劇団森の会→テアトル・エコー→NPSテアトル→アーツビジョン→フリーランス。  
高校時代に放送演劇部入部をきっかけに役者への道へ。海外ドラマで若い青年ヒーローを次々と演じた。アニメは草創期から活躍、第1次声優ブームの牽引役を務めた。  
特に長浜忠夫の作品に多く出演し、敵方の「美形キャラクター」を演じた。当時40代でその甲高い美声を発する独特の演技に周囲は驚嘆していたが、2006年、『超電磁マシーン ボルテスV』DVD発売告知のTVCMにおいて、当時70歳ながらハイネル役を演じた。なお、一時期は喉を痛め吹き替えから遠ざかっていた時期もあった。2009年1月2日、入浴中に体調を悪くし、心不全で死去。72歳没。遺作は同年3月稼働の業務用ゲーム『機動戦士ガンダム ガンダムVS.ガンダム NEXT』のノリス・パッカード役であった。

## 特色

声種はハイバリトン。  
美形キャラクターを含む若者のみならず、中年男性や老境に差し掛かった人物なども数多く演じ、役柄の幅は広い。テアトル・エコーが担当した『仮面ライダー』や『変身忍者 嵐』では、池水通洋との共演が知られている。『ウルトラマンA』でのゾフィーのようなヒーロー役や『仮面ライダーストロンガー』でマシーン大元帥などのボスキャラクターも多く演じている。悪役では、悪そうな声や唸り声では入りつおや柴田秀勝らには敵わないため、セリフの鋭さや怖さを強調した知的な悪役とすることを意識していた。また、セリフを重視していたためドラ声で喋ってイントネーションがおかしくなることを嫌っており、現場でもそれを汲んでセリフの多い役が増えていったという。また、『仮面ライダー』では主演の藤岡弘、が失踪した際に、第66話・第67話で仮面ライダー1号の代行アフレコを務めた。現場ではぎりぎりまで藤岡が現れるのを待っており、不安な中で演じたという。外国人役は日本語の単語を英語に置き換えるのがコツであるとし、自身の得意なパターンであったと述べている。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



## 【巨大シャーキン】

妖魔の雷で巨大化したシャーキン。武装はサーベル、ミサイルと化した髪の毛、回転ノコギリとしても使える盾など。それ以前の戦いでダメージを負ったライディーンを追い詰めるが、紙一重の差でゴッドブレイカーに負かれる。のちの巨大化した幹部の巨烈獣バンガーと比べてメカ描写に乏しい。

2021.07.04

# 勇者ライディーン



【アギール将軍】声 - 相模太郎  
妖魔帝国の戦闘指揮官。将軍という肩書きでプライドは高いが、おちょこちょいな面もあり、徐々にコメディ担当になっていった。幹部の中では地位は低くベロスタンより下。ライディーンに負け続けた結果、第18話で悪魔憲法第49条により死刑を宣告される。そのため、最後の作戦として、妖魔帝国に命を狙われているふりをして臨海学園に逃げ込み、洗を罠にかけた。

【ダルダン提督】声 - 仁内達之（初期の一部ナレーションも兼任）  
第18話ラストより登場した、アギール将軍の後任の戦闘指揮官。アギール将軍に比べて冷徹、残忍な性格。

【祭官ベロスタン】声 - 肝付兼太  
妖魔帝国の祭祀長で、化石獣復活を行なう。ベロスタンが石の山に呪文を唱え、バラオ像の眼から怪光線が発せられると、石は化石獣に変わる。配下の神官を複数抱えていた。第27話、バラオの復活により妖魔帝国が崩壊した際に地割れに飲まれている。その後散った。

【豪雷巨烈（ごうらいきよれつ）】声 - 加藤精三  
復活したバラオがヒマラヤから蘇らせた側近。化石獣よりも強力な巨烈獣を操る。ずる賢い頭脳派であり、激怒巨烈の兄にあたるが仲は悪く、時には互いの作戦を妨害することでライディーンに利する結果も招いた。しかし激怒が戦死した際にはこれを悲しみ、仇を討つべく自らを巨烈獣と化してライディーンに決戦を挑んだが、寸での所で逆転されて戦死した。

【激怒巨烈（げきどきよれつ）】  
声 - 飯塚昭三  
復活したバラオがゴビ砂漠から蘇らせた側近で豪雷巨烈の弟。兄同様、化石獣よりも強力な巨烈獣を操る。兄に比べ巨漢で頭を使うことは苦手。怒りっぽく短気で好戦的なため、反りが合わない兄とは何かにつけて争っていた。武人肌で、敗れた巨烈獣を讃えて黙祷で応えたこともある。第47話で専用の戦闘機を巨烈獣ゴースタンに合体させて決戦を挑むも、ゴーガンソードでゴースタンごと左右に真っ二つにされて敗北、戦死する。  
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

# 1975年

<https://majingai.x.fc2.com>

【妖魔大帝バラオ】声 - 滝口順平  
妖魔帝国の帝王。石像に封印されていたが、シャーンが死の間際に捧げた祈りのために第27話ラストで復活。復活後は「妖魔大帝バラオ」を名乗る。復活後は妖魔島に巨烈獣より巨大な上半身が生えた異様な姿をしている。また最終回で島が破壊された際、根の生えた心臓のような下半身を露わにした。激怒巨烈には「大王様」と呼ばれていた。巨烈兄弟を率いてライディーンを苦しめた。当初は劇中で「バオラ」と呼ばれていた。巨烈兄弟とバラゴーンを失ったバラオは決戦を挑むためムトロポリスへの進撃を始める。その際天変地異を起こし、街を壊滅に追いやった。ライディーンを圧倒するがムートロシの力を得たライディーンに敗れ去る。武装は火炎放射と手、角から放つ破壊光線、剣、大鎌、弓、ブーメランなどの白兵戦武器など。

# 勇者ライディ 1975年

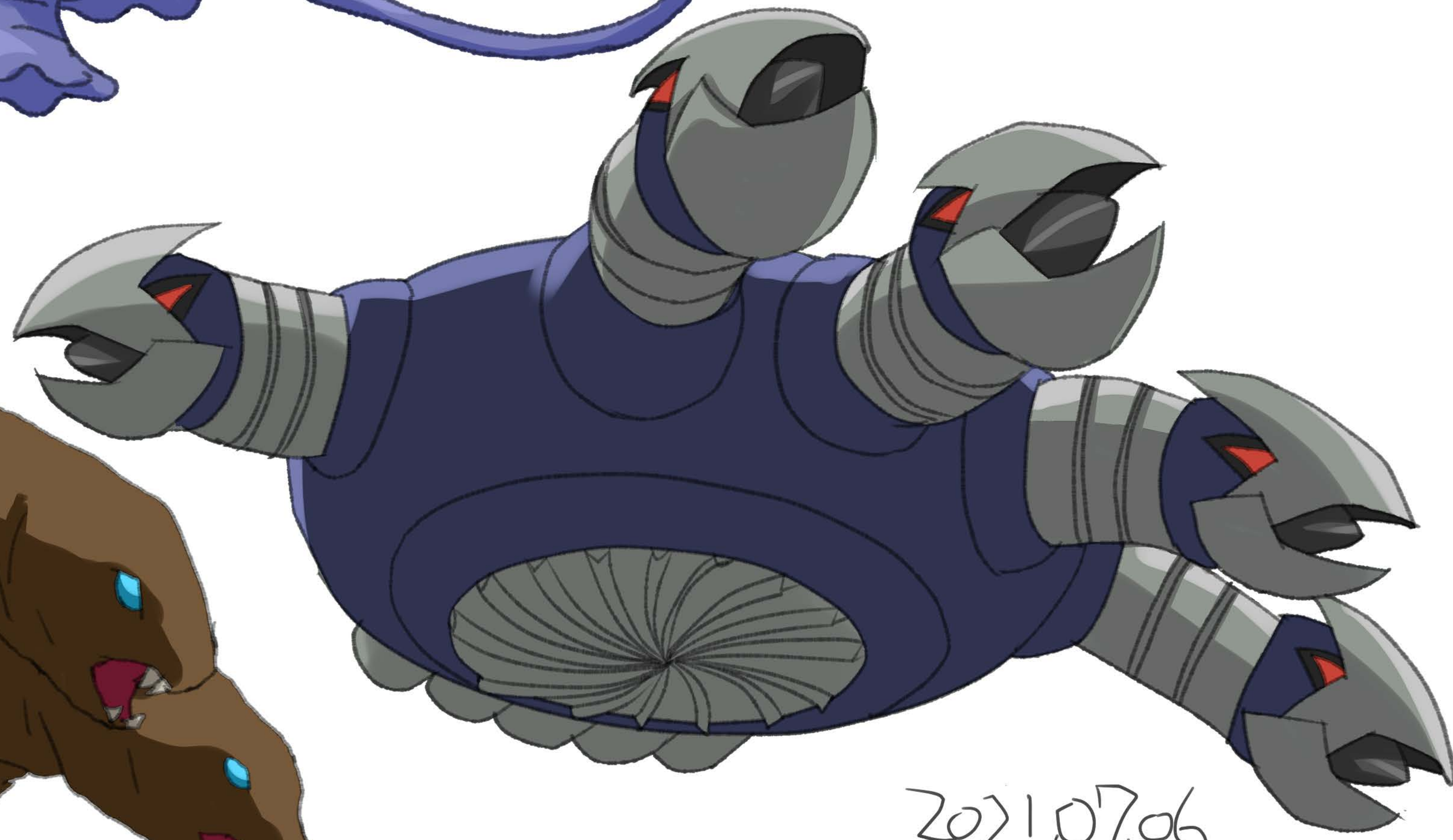
- 【スタッフ】
- ・ チーフ・ディレクター - 富野喜幸 (第1話 - 第26話)
  - ・ 総監督 - 長浜忠夫 (第27話 - 第50話)
  - ・ 企画 - 東北新社、旭通信社
  - ・ 原作 - 鈴木良武 (連載誌 - 『テレビマガジン』、『冒険王』)
  - ・ キャラクターデザイン - 安彦良和
  - ・ メカニックデザイン - 村上克司、スタジオぬえ
  - ・ プロデューサー - 宮崎慎一、小澤英輔、岸本吉功
  - ・ 音響監督 - 斉藤敏夫
  - ・ 音響制作担当 - 沼田かずみ
  - ・ 音楽 - 小森昭宏
  - ・ 制作 - NET、東北新社



【ドローメ】  
集団で現れる下級妖魔獣。タコやイカもしくはクラゲに似た形状で、2本の触腕を持つ。口吻から溶岩弾を射出したり、これを触腕で投げつけて攻撃する。主にシャークンの軍団で使用された。



【ガンテ】  
別名大魔竜。作戦行動時、アギヤール（後にその後任ダルダン）が搭乗して前線で指揮を執る、戦闘母艦的な巨大妖魔獣。無数のドローメを引き連れて飛来する。人間の手を模した岩塊のような姿で（名称の由来=「岩（ガン）手（テ）」）、指先の部分にそれぞれ頭部を持つ。



【メカガンテ】  
ガンテの後継母艦。ガンテを機械に置き換えたデザイン。基本的に轟雷巨烈の母艦として使用していたが、第47話では激怒巨烈へ一時的に貸与している。同話で古代船ごとレムリアを捕えるも奪還され、ゴッドバード・ヘッドカッターによって破壊されてしまう。再建造されたようで第48話にも登場している。

2021.07.06

【化石獣】  
妖魔帝国が地上侵略のため送り込む怪獣。ペロスタンが儀式を行なって隆起した岩塊を素体とし、バラオ像の両眼から放たれた怪光線によって生命を得る。形状も能力も様々で、後に兵器などの機械を融合させ、強化されるようになる。中にはジャガー（声-森功至）やコンガーのような生きた者もペロスタンに化石獣へ変身させられる。

【巨烈獣】  
豪雷・激怒の巨烈兄弟が作り出す戦闘ロボット。登場初期は、冒頭にそれぞれの巨烈獣を持ち寄ってバラオの面前で対決させ、勝った方をライディーンに差し向けていた。通算成績は13戦6勝5敗2引き分けで激怒巨烈の勝ち。後にバラオが兄弟それぞれの巨烈獣を合体させて「合体獣」を創り出す事も数度あった。化石獣、巨烈獣とも、人間を改造する場合もある（第10話、第36話）。第48話では豪雷巨烈も自らを巨烈獣に変化させて戦いを挑んできた。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

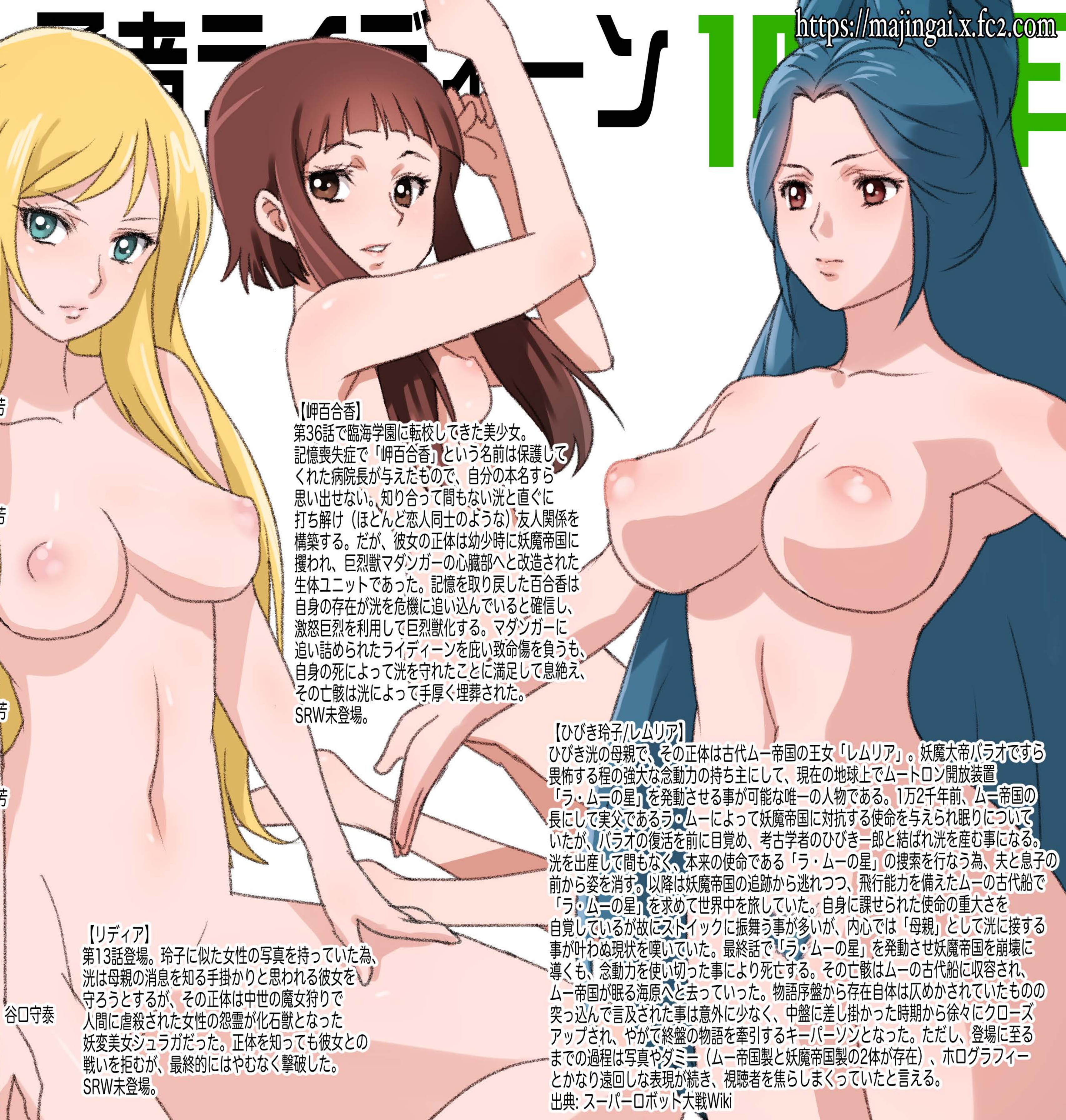
話数 サブタイトル  
 第1話 大魔竜ガンテ  
 第2話 化石巨獣バストドン  
 第3話 鋼鉄獣ガーダ 五  
 第4話 大マドン東京全滅  
 第5話 強襲!超音獣ビイラ  
 第6話 奪回!巨大トーストの人質  
 第7話 分裂獣スカールを砕け!  
 第8話 逆襲!双頭魔獣シバ  
 第9話 恐怖!マンモアの冷凍作戦  
 第10話 対決!化石人ジャガーの恋  
 第11話 殺し屋ギルディーン陰謀  
 第12話 火球獣アルガンドスの痛撃  
 第13話 妖変美女シュラガの愛  
 第14話 暗闇魔獣ダアクルの洞窟  
 第15話 宝石魔獣ダイヤンの復讐  
 第16話 海竜ドローズデンの地獄攻め  
 第17話 不死身ゴーレモンの悪魔裂き  
 第18話 壮烈!アギヤール必殺の電撃  
 第19話 巨獣ゴンガー魔腕の喰り  
 第20話 残忍!悪魔提督ダグダン  
 第21話 強撃!翼獣ムチールの罠  
 第22話 乱撃!魔鳥コンドルの爪  
 第23話 妖刀鎌ギラーと轟撃モグロン  
 第24話 分身魔獣キバゴの怪拳!  
 第25話 灼熱獣モドロスの炎  
 第26話 妖獣ガメレン地獄の大進撃  
 第27話 シャーキン悪魔の闘い  
 第28話 地獄の巨烈獣大あばれ!  
 第29話 七つ目獣レーザルを叩け  
 第30話 怪力ガンマー脳天つぶし  
 第31話 恐怖のテツダンさかさ落とし  
 第32話 ドライガー心臓破り作戦  
 第33話 破壊魔獣11の秘密  
 第34話 ガルジャー謎の秘密兵器  
 第35話 熱火竜サラマダーの炎  
 第36話 地獄の射手マダンガー  
 第37話 ザイクロン激突カーレース  
 第38話 再生魔獣ダングスを砕け!  
 第39話 怪鳥獣ギガールの爪  
 第40話 黒い殺人鬼ジェットクロス  
 第41話 強力合体獣ガードンの罠  
 第42話 サンドキラー恐怖の砂嵐  
 第43話 殺し屋合体獣チャーゴ  
 第44話 キバガーダ猛火攻め  
 第45話 死神ギルモラー悪魔ばさみ  
 第46話 ガピロン魔の死刑台  
 第47話 激怒巨烈地獄の叫び  
 第48話 豪雷巨烈軍団の挑戦  
 第49話 バラオ最後の賭け 山本優  
 第50話 輝け!不死身のライディーン 五武冬史

脚本  
 五武冬史  
 山本優  
 武冬史  
 山本優  
 五武冬史  
 吉田喜昭  
 辻真先  
 伊上勝  
 伊上勝  
 辻真先  
 辻真先  
 伊上勝  
 高久進  
 辻真先  
 辻真先  
 高久進  
 山本優  
 伊上勝  
 辻真先  
 辻真先  
 高久進  
 伊上勝  
 伊上勝  
 辻真先  
 辻真先  
 五武冬史  
 五武冬史  
 山本優  
 辻真先  
 古城武司  
 辻真先  
 五武冬史  
 山本優  
 古城武司  
 高久進  
 辻真先  
 五武冬史  
 辻真先  
 田口章一  
 古城武司  
 五武冬史  
 辻真先  
 高久進  
 田口章一  
 山本優  
 五武冬史

コンテ  
 富野喜幸  
 安彦良和  
 頼田強  
 奥田誠治  
 高橋資祐  
 頼田強  
 高橋資祐  
 高橋資祐  
 頼田強  
 安藤正信  
 秦泉寺博  
 高橋資祐  
 頼田強  
 安藤正信  
 高橋資祐  
 富野喜幸  
 安藤正信  
 高橋資祐  
 富野喜幸  
 安藤正信  
 安彦良和  
 高橋資祐  
 高橋和十八  
 斧谷稔  
 高橋資祐  
 三家本泰美  
 高橋資祐  
 富沢雄三  
 高橋資祐  
 斧谷稔  
 安藤正信  
 高橋和十八  
 高橋資祐  
 安藤正信  
 高橋良輔  
 高橋資祐  
 安藤正信  
 出崎哲  
 高橋資祐  
 長浜忠夫  
 斧谷稔  
 高橋資祐  
 安彦良和  
 斧谷稔

担当演出  
 -  
 -  
 -  
 -  
 -  
 -  
 -  
 三家本泰美  
 高橋資祐  
 神田武幸  
 三家本泰美  
 高橋資祐  
 神田武幸  
 三家本泰美  
 棚橋一徳  
 神田武幸  
 三家本泰美  
 高橋資祐  
 神田武幸  
 三家本泰美  
 野村和史  
 楠ゆたか  
 三家本泰美  
 高橋資祐  
 楠ゆたか  
 三家本泰美  
 野村和史  
 楠ゆたか  
 三家本泰美  
 高橋資祐  
 野村和史  
 楠ゆたか  
 三家本泰美  
 野村和史  
 野村和史  
 三家本泰美

作画監督  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 安彦良和  
 野崎恒伸  
 野崎恒伸  
 佐々門信芳  
 谷口守泰  
 野崎恒伸  
 中村一夫  
 野崎恒伸  
 佐々門信芳  
 野崎恒伸  
 塩山紀生  
 谷口守泰  
 坂本三郎  
 坂本三郎  
 坂本三郎  
 坂本三郎  
 坂本三郎  
 谷口守泰  
 佐々門信芳  
 坂本三郎  
 谷口守泰  
 坂本三郎  
 佐々門信芳  
 谷口守泰  
 坂本三郎  
 坂本三郎  
 坂本三郎  
 坂本三郎  
 坂本三郎  
 安彦良和  
 坂本三郎  
 安彦良和  
 坂本三郎  
 塩山紀生  
 坂本三郎  
 坂本三郎  
 安彦良和  
 坂本三郎



【岬百合香】  
 第36話で臨海学園に転校してきた美少女。記憶喪失症で「岬百合香」という名前は保護してくれた病院長が与えたもので、自分の本名すら思い出せない。知り合って間もない氷と直ぐに打ち解け(ほとんど恋人同士のような)友人関係を構築する。だが、彼女の正体は幼少時に妖魔帝国に攫われ、巨烈獣マダンガーの心臓部へと改造された生体ユニットであった。記憶を取り戻した百合香は自身の存在が氷を危機に追い込んでいると確信し、激怒巨烈を利用して巨烈獣化する。マダンガーに追い詰められたライディーンを庇い致命傷を負うも、自身の死によって氷を守れたことに満足して息絶え、その亡骸は氷によって手厚く埋葬された。SRW未登場。

【ひびき玲子/レムリア】  
 ひびき氷の母親で、その正体は古代ムー帝国の女王「レムリア」。妖魔大帝バラオですら畏怖する程の強大な念動力の持ち主にして、現在の地球上でムーロン開放装置「ラ・ムーの星」を発動させる事が可能な唯一の人物である。1万2千年前、ムー帝国の長にして実父であるラ・ムーによって妖魔帝国に対抗する使命を与えられ眠りについてしたが、バラオの復活を前に目覚め、考古学者のひびき一郎と結ばれ氷を産む事になる。氷を出産して間もなく、本来の使命である「ラ・ムーの星」の捜索を行なう為、夫と息子の前から姿を消す。以降は妖魔帝国の追跡から逃れつつ、飛行能力を備えたムーの古代船で「ラ・ムーの星」を求めて世界中を旅していた。自身に課せられた使命の重大さを自覚しているが故にストイックに振舞う事が多いが、内心では「母親」として氷に接する事が叶わぬ現状を嘆いていた。最終話で「ラ・ムーの星」を発動させ妖魔帝国を崩壊に導くも、念動力を使い切った事により死亡する。その亡骸はムーの古代船に収容され、ムー帝国が眠る海原へと去っていった。物語序盤から存在自体は仄めかされていたものの突っ込んで言及された事は意外に少なく、中盤に差し掛かった時期から徐々にクローズアップされ、やがて終盤の物語を牽引するキーパーソンとなった。ただし、登場に至るまでの過程は写真やタミ(ムー帝国製と妖魔帝国製の2体が存在)、ホログラフイーとかかなり遠回しな表現が続き、視聴者を焦らしまくっていたと言える。出典:スーパーロボット大戦Wiki

【リディア】  
 第13話登場。玲子に似た女性の写真を持っていた為、氷は母親の消息を知る手掛かりと思われる彼女を守るうとするが、その正体は中世の魔女狩りで人間に虐殺された女性の怨霊が化石獣となった妖変美女ジュラガだった。正体を知っても彼女との戦いを拒むが、最終的にはやむなく撃破した。SRW未登場。

谷口守泰